

1. 主な研究内容について

- 1) 作業 (occupation) の健康への寄与に関する大規模コホート研究
 - ・住民健診データを基にした疫学調査を実施しています。
- 2) 作業科学を基盤とした高齢者の認知機能低下抑制に関する研究
 - ・市町村が実施する介護予防教室において、作業 (occupation) への挑戦と認知機能低下抑制の研究を実施しています。
 - ・地域在住高齢者を対象とした二重課題と認知機能低下抑制についての介入研究を実施しています。
- 3) 地域在住高齢者の転倒予防に関する介入研究
 - ・松原市社会福祉協議会との共同研究において、転倒予防介入の研究を実施しています。
 - ・2020年度より、オンラインによる転倒予防介入を開始しています。
 - ・OpenPoseによる姿勢分析

2. 主な共同研究先

和歌山県立医科大学、森ノ宮医療大学、松原市社会福祉協議会、姫路市増位・広嶺地域包括支援センター、田原本町地域包括支援センター、介護老人保健施設ヴァンサンク、阪急・阪神ホールディングス、社会福祉法人隆生福祉会、

3. 今まで指導した学位論文名

2020年度着任にてなし

4. 主な論文・著書

- ・ Yokoi K, Sakakibara Y, Inamoto T, Fujii Y, Sakai H. Dual-Task Training Combining Cognitive Tasks and Occupations among Japanese Community-Dwelling Older Adults: A Pilot Study. *Occup Ther Health Care*. 36(4):422-439, 2022.
- ・ Yokoi K, Miyai N, Tsuji K, Arima M, Kurasawa S, Hayakawa H, Uematsu Y, Arita M. Associations between deterioration of self-rated health and occupational form among community-dwelling Japanese individuals. *Public Health in Practice* 2: 100147, 2021.
- ・ Yokoi K, Miyai N, Utsumi M, Hattori S, Kurasawa S, Hayakawa H, Uematsu Y, Arita M. Relationship between Fall History and Self-Perceived Motor Fitness in Community-Dwelling People: A Cross-Sectional Study. *J Clin Med*. 13(9):3649, 2020.
- ・ Yokoi K, Miyai N, Utsumi M, et al. The Relationship Between Meaningful Occupation and Self-Rated Health in Japanese Individuals: The Wakayama Study. *Occup Ther Health Care*. 34(2):116-130, 2020.
- ・ Yokoi K, Kurasawa S, Utsumi M, Miyai N. Relationship between Child Occupational Self-Assessment and Quality of Life in Elementary School Children. *Journal of Occupational Therapy, Schools, & Early Intervention*. 13(1): 7-18, 2020.
- ・ Kawanishi K, Kudo S, Yokoi K. Relationship Between Gliding and Lateral Femoral Pain in Patients With Trochanteric Fracture. *Arch Phys Med Rehabil*. 101(3):457-463, 2020.
- ・ Kurasawa S, Yokoi K, Utsumi M, Shiozu H, Miyai N. Sleep Education for Primary School Students by Occupational Therapists in Japan: A Pilot Study through a Health Promotion Project. *Journal of Occupational Therapy, Schools, & Early Intervention*. 13(2): 186-196, 2020.

5. 現在の指導している大学院生数

M1 : 2名、 M2 : 2名、 D1 : 1名、 D2 : 2名、 D3 : 2名、 D4 : 1名

6. どのような大学院生の受け入れを希望するか？

- ・ 研究に対して、粘り強くかつ真摯に取り組むことができる方。
- ・ 臨床で湧き上がった疑問を解決したい方。
- ・ 作業 (occupation) の健康への貢献について関心がある方。
- ・ 介護予防に関する新しい介入戦略を打ち立てたい方。
- ・ フィールド調査に参加できる方。